

平成25年3月期 決算説明会Q&A

【平成25年3月期実績】

Q: 通期見通しに対して、営業利益7億円未達の要因はなにか

計測事業や産業機械事業など、ビジネスは計画通りに進捗した。
A: その他セグメントで、有形固定資産の減損費用(日本基準では特別損失に計上)約6億円を費用計上したことが主な要因である。

Q: 計測事業の第4四半期の受注が大きく積み上がった要因は何か

年初からチップセット、端末ベンダーで投資の動きが活発化している。
A: 第4四半期は北米でLTE開発向け需要、アジアで3GとLTE製造向けの需要が積み上がった。足元もその傾向は続いている。

【平成26年3月期計画について】

Q: 売上高の伸びに対して、利益の伸びが少ない理由はなにか

計測事業で将来のビジネス拡大に向けたR&Dや海外のサポート体制拡充などの投資を強化する。投資を行いながら、営業利益率20%以上を計画している。

Q: 為替の影響は

想定為替レートは\$=90円、ユーロ=120円である。
A: 外貨建てを全てドルに換算した前提で、対ドル1円の変動により年間営業利益に2億円の影響が出る。

Q: 為替が想定レート(\$=90円)よりも円安水準で1年間推移した場合、為替による利益上振れがあると考えて良いのか、上振れ分の利益は投資に振り向ける方針なのか

想定レートよりも円安の水準で為替が推移すれば、円安効果により上振れの可能性はある。一方、戦略的投資のテーマは数多く、経営環境を見極めながら、優先度により投資を判断していく。

Q: 戦略的投資の内容について教えてほしい。

モバイル分野を中心に、将来のビジネス拡大に向け、R&D投資や海外のローカルサポート体制拡充に関する投資を強化し、新たな顧客の獲得や、既存顧客との継続的な関係構築に注力する。
A: 顧客との継続的な関係構築がビジネス上の参入障壁になり、安定的な収益の基盤となる。

Q: キャッシュフローの使途についての考え方を教えてほしい。

事業環境のボラティリティに備え、月商4~5か月分をキャッシュとして確保する他、将来のビジネス拡大や新たなビジネスの柱の構築に向け、R&Dを含めた投資が必要と考えている。